

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 3 日

評価対象事業	消防 - 04	消防施設整備事業	☐ 法定受託事務
所管課	消防本部 消防総務課		評価者 消防総務課長 中嶋 仁孝
一般	会計	款 50	項 05 目 15
総合計画上の位置付け	分野名	5-(1)防災・安全	施策の方針名 5-(1)-③消防機能の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民及び消防職員等	意図	市内全地域の防火防災体制の強化等を図り、老朽化した消防庁舎を「災害に強い守りの拠点」へと整備する。
効果	迅速な災害対応で被害を軽減し、救命率を向上させることで、安全・安心で魅力ある地域社会を構築する。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	・（仮称）雪ノ下消防出張所の設計、調査 ・消防団第16、17分団移転整備 ・玉縄出張所の整備方針の確定	・（仮称）雪ノ下消防出張所の設計、調査 ・消防団第16、17分団移転整備 ・玉縄出張所の設計、調査	・（仮称）雪ノ下消防出張所の設計、調査 ・消防団第16、17分団移転整備 ・玉縄出張所の設計、調査
予算額（千円）	49,684	103,651	
国県支出金		4,121	
地方債			
その他			
一般財源	49,684	99,530	0
当初人員配置数	1.2	2.0	0.0
人件費（千円）	10,244	19,417	0
事業実績	・（仮称）雪ノ下消防出張所の設計業務の締結 ・消防団第16、17分団移転整備の賃貸借の契約 ・玉縄出張所の方針決定		
決算額（千円）	42,823		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	42,823	0	0
人員配置実績数	2.2	0.0	0.0
人件費（千円）	18,223	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	（仮称）雪ノ下消防出張所新築整備の設計業務の進捗率	%	30.0	100	30.0		
	実績につながる活動	設計業者と委託業務を締結し、設計業務を進めた。				30,800		
活2	指標名	（仮称）雪ノ下消防出張所改築整備の各種調査の進捗率	%	30.0	100	30.0		
	実績につながる活動	移転整備に伴う、環境影響調査や測量調査を実施した。				11,089		
活3	指標名	玉縄出張所の整備事業の進捗率	%	0	100	0		
	実績につながる活動	施設の老朽化に伴い、「現在地での建替え」を行う方針を決定した。				0		
活4	指標名	消防団第16、17分団移転整備業務の進捗率	%	0	100	40.0		
	実績につながる活動	移転整備の調査を行い、消防団器具置場の賃貸借契約を締結した。				934		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	設計業務および各種調査は、当初の計画に沿って着実に進捗している。特に、施設整備において不可欠な「住民合意の形成」という重要プロセスを優先し、説明と対話を重ねた。引き続き、住民の不安を解消するため真摯に対話を継続し、地域に信頼される施設づくりを進めていく。また、消防団第16・17分団の賃貸借契約も完了しており、次年度の本格着工に向けた準備作業を進めていく。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
					実績			
成1	（仮称）雪ノ下消防出張所の整備の進捗率	%	10.0	70.0	10.0			1 2
成2	玉縄出張所の整備の進捗率	%	0	30	0			3

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	地域住民の防災意識が高く、サイレン音等への懸念に対して対話を重ねた。不安を解消し、協力体制を構築することが、計画遂行に必要である。今後も地域住民との対話を継続していく。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	（仮称）雪ノ下消防出張所の新築に向けた調査および設計委託を計画通り完了し、着実に業務を進めている。また、玉縄出張所の改築方針の決定など、すべての指標において年度内の節目となる目標を確実に達成した。全体として、新しい消防体制の確立に向けた取組は順調に推移している。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	計画的な設計・調査活動が、整備進捗という成果に直結している。引き続き設計業務を進め、令和9年度の円設計業の完了に向けた強固な基盤が構築されつつある。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☒ 増えている ☐ 変わらない ☐ 減少している			
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市 ☐ 国・県 ☐ 民間事業者 ☐ なし			
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている ☒ 概ね出ている ☐ 出していない			
	効率性	事業費削減余地	☐ ある ☒ なし			
		関連・類似事業との統合	☐ できる ☒ できない			
公平性	受益者負担	☐ 導入済 ☐ 導入予定 ☒ 導入できない				
方向性	評価実施年度の方向性		⇒ 評価実施翌年度以降の方向性			
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合		
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ④ 予算規模は現状維持とする ☒ ⑤ 予算規模は拡大する ☐ ⑥ 予算規模は縮小する		
	今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応	結果	具体的な内容		
今後の取組方針（見直し方針）	前年度の新たな課題への対応結果	前年度は新たな課題なし				
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たな課題あり	移転整備を進める上で、地域住民への周知が十分でないとの指摘され、工事事業進捗の度に、さらなる情報共有の強化が求められている。			
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新規事業の必要性はない	説明会の充実や広報紙・SNS等のあらゆる手段を活用し、事業の目的や進捗状況をきめ細かく発信する。これらは既存事業の工夫で対応可能であり、現時点で新規事業を立ち上げる必要はない。			
	総評	令和7年度は、（仮称）雪ノ下消防出張所の設計着手や各種調査、消防団器具置場の賃貸借契約など、主要な工程を着実に遂行した。現在継続中の設計業務においては、地域住民との対話を継続し、サイレン音等の懸念に対し説明を重ねることで、協力体制の構築に努めていく。今後も住民に寄り添った進捗管理を行い、令和9年度設計完了、そして地域の安全・安心を支える拠点整備を確実に推進していく。				
			上位施策への寄与度			
			A			

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	本事業は市独自の地勢や老朽状況に基づき、最適な配置・機能を整備する個別性の高い事業である。他市でも消防整備はあるが、防災計画や整備基準、更新周期、地形条件等が自治体ごとに大きく異なる。よって、一律の指標による数値比較は実態を正確に反映しにくく、比較にはなじまないものと判断した。
----------------------	---